

製薬会社の皆様，そして，学生の皆様 一緒に，こんな研究をしてみませんか？

【研究テーマ 1】副作用シグナル検出システムの構築

薬物治療中に発現する好ましくない副作用をできるだけ早く検出し，重篤な健康被害から患者を守ることは，薬剤師の重要な役割です。

我々は，患者の自覚症状に着目して，保険薬局と連携した副作用シグナルの検出システム構築を進めています。今後，普及が進むと予想されるスマートフォンなどの携帯端末を利用した電子通信システムに発展させたいと考えています。



NHK 山口放送局の取材を受けました(2011年7月8日)

【研究テーマ 2】院内感染の防止

多剤耐性緑膿菌や多剤耐性アシネトバクターなどの耐性菌では，市販の抗菌薬いずれにも全く感受性を示さない株があります。このような耐性株に対する抗菌薬の併用効果を検討しています。

また，医薬品の微生物汚染防止や消毒薬の適正使用などについての研究や，新規消毒薬のメーカーとの共同開発を行っています。



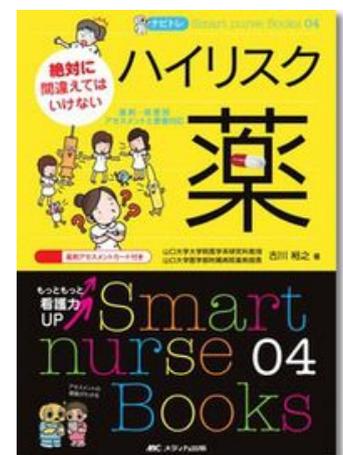
医学部学生の研究も指導しています

【研究テーマ 3】医薬品使用時の安全管理

病院で発生するインシデントで最も多いのは，医薬品に関連するものです。医師(処方)，薬剤師(調剤)，看護師(投与)，患者(服用)の各ステップでのエラーにより，様々なインシデントが発生します。

エラーを引き起こす因子は，当事者だけでなく，当事者を取り巻く環境の中にもあります。例えば，注射剤のラベルの印刷方法も，そのひとつです。

我々は，医師，薬剤師，看護師，そして，患者にエラーを誘う因子(エラー誘因)を科学的に検討し，行政や製薬会社に対して，効果的なエラー防止対策を提案しています。



こんな本も出版しました

【研究テーマ 4】 製造販売後調査の効果的な実施体制の構築

製造販売後調査は、新薬の市販後の安全性情報をはじめとした適正使用のための情報収集に重要な役割を果たしています。

しかし治験とは異なり、制度を含め医療機関の実施体制も確立されているとは言えない状況です。

私たちは、製造販売後調査を効果的に実施し世界にも通用するエビデンスともなるように、制度自体の改善、国際化への対応、患者保護、臨床研究との棲み分け、適切な契約方法等に関する提案を行いながら、医療機関内での実施・支援体制の構築を検討しています。



雑誌に論文が掲載されています